

第1 事件の種類・訴額等について

「第1」の質問は、担当書記官に御協力いただきて回答して下さい。

問1	高等裁判所名を入力して下さい。
----	-----------------

本庁：

支部： (注：本庁所属の方は、選択の必要はありません。)

問2	事件番号を半角数字で入力して下さい。
----	--------------------

平成  年 (ネ)  号

問3

事件の種類を選択してください。

- 1 売買代金(売掛代金を含む。)
- 2 貸金
- 3 立替金・求償金等 (信販関係事件に限る。)
- 4 建築請負代金等
- 5 建築瑕疵による損害賠償
- 6 交通事故による損害賠償
- 7 医療行為による損害賠償
- 8 公害による損害賠償
- 9 その他の損害賠償 (→記述欄に、「先物取引に関する損害賠償」のように、簡潔に記載してください。)

- 10 手形・小切手金 (異議を除く。)
- 11 手形・小切手異議
- 12 金銭債権債務存否確認
- 13 労働に関する訴え
- 14 知的財産権に関する訴え
- 15 その他の金銭を目的とする訴え (→記述欄に、「保証債務の履行請求」のように、簡潔に記載してください。)

- 16 建物を目的とする訴え  
主に不動産の賃貸借契約に関する紛争であるか。
  - 1 いいえ
  - 2 はい
- 17 土地を目的とする訴え (境界(筆界)に関する訴えを除く。)  
主に不動産の賃貸借契約に関する紛争であるか。
  - 1 いいえ
  - 2 はい
- 18 境界(筆界)に関する訴え
- 19 労働に関する訴え (金銭を目的とする訴えを除く。)
- 20 知的財産権に関する訴え (金銭を目的とする訴えを除く。)
- 21 請求異議の訴え
- 22 第三者異議の訴え
- 23 公害に係る差止めの訴え
- 24 責任追及等の訴え (株主代表訴訟事件)
- 25 その他の訴え (→記述欄に具体的に記載してください。)

問4

第1審の訴額を選択してください。

(注)1審における最終的な請求額（1審判決の請求欄参照）を基に回答してください。

- 1 100万円まで
- 2 200万円まで
- 3 300万円まで
- 4 400万円まで
- 5 500万円まで
- 6 1000万円まで
- 7 5000万円まで
- 8 1億円まで
- 9 5億円まで
- 10 10億円まで
- 11 10億円を超える
- 12 算定不能・非財産権上のもの

## 第2 1審・控訴審の終局状況について

問5 1審の終局状況について該当するものを回答してください。

- 1 判決 全部認容
- 2 判決 一部認容
- 3 判決 全部棄却
- 4 判決 却下
- 5 判決 その他（→記述欄に具体的に記載してください。）

問6 1審判決に対する控訴・附帯控訴の状況について、該当するものを回答してください。（複数回答可）

- 1 1審原告が控訴をした。
- 2 1審被告が控訴をした。
- 3 1審原告が附帯控訴をした。
- 4 1審被告が附帯控訴をした。

注：一旦チェックしたマークを消すときは、チェックボックス欄をもう一度クリックしてください。

問7 控訴審の終局状況について該当するものを回答してください。

- 1 判決 原判決取消し・変更（判決内容について、次の中から当てはまるものを選んでください。）
  - 1 1審判決よりも1審原告側に有利
  - 2 1審判決よりも1審原告側にやや有利
  - 3 どちらともいえない。
  - 4 1審判決よりも1審原告側にやや不利
  - 5 1審判決よりも1審原告側に不利
- 2 判決 控訴棄却
- 3 判決 控訴却下
- 4 和解（和解内容について、次の中から当てはまるものを選んでください。）
  - 1 1審判決よりも1審原告側に有利
  - 2 1審判決よりも1審原告側にやや有利
  - 3 どちらともいえない。
  - 4 1審判決よりも1審原告側にやや不利
  - 5 1審判決よりも1審原告側に不利
- 5 控訴取下げ
- 6 放棄
- 7 認諾
- 8 訴え取下げ
- 9 その他（→記述欄に具体的に記載してください。）

### 第3 訴訟代理人弁護士の選任状況について

問8	1 審における訴訟代理人弁護士の選任状況について、次のうち当てはまるものを選択してください（なお、1 審の途中から弁論終結時までには訴訟代理人弁護士が付いたり、又は当初付いていた訴訟代理人弁護士が弁論終結時までには辞任したりするなど、一時的にせよ弁護士の関与があった場合は、いずれも「弁護士が付いていた」ものとして回答してください。）。
----	--

- 1 1 審原告に訴訟代理人弁護士が付いていた（被告本人型）。
- 2 1 審被告に訴訟代理人弁護士が付いていた（原告本人型）。
- 3 いずれの当事者にも訴訟代理人弁護士は付いていない（双方本人型）。

問9	控訴審における訴訟代理人弁護士の選任状況について、次のうち当てはまるものを選択してください（なお、控訴審の途中から弁論終結時までには訴訟代理人弁護士が付いたり、又は当初付いていた訴訟代理人弁護士が弁論終結時までには辞任したりするなど、一時的にせよ弁護士の関与があった場合は、いずれも「弁護士が付いていた」ものとして回答してください。）。
----	--

- 1 1 審原告に訴訟代理人弁護士が付いていた（被告本人型）。
- 2 1 審被告に訴訟代理人弁護士が付いていた（原告本人型）。
- 3 いずれの当事者にも訴訟代理人弁護士は付いていなかった（双方本人型）。
- 4 いずれの当事者にも訴訟代理人弁護士が付いていた（双方弁護士型）。

#### 第4 控訴審における審理の状況について

「第4」の質問は、1審で訴訟代理人弁護士が付いている当事者についても回答してください。

問10	控訴審における期日実施の状況について、「いいえ」「はい」の中から当てはまるものを選択してください。
-----	---

控訴審において、改めて実質的な争点整理のための期日（口頭弁論期日、弁論準備手続期日、進行協議期日等、期日の種類は問いません。）を行った。

- 1 いいえ
- 2 はい

第1回口頭弁論期日において、審理を終結した。

- 1 いいえ
- 2 はい

問11	控訴審における当事者の主張について、当てはまるものを選択してください。
-----	-------------------------------------

##### （1審原告について）

1審で主張していなかった新たな事実上の主張をした。

- 1 いいえ
- 2 はい

1審で主張していなかった新たな法律上の主張をした。

- 1 いいえ
- 2 はい

1審段階での主張立証に基づいて、原判決の認定判断を批判する主張をした。

- 1 いいえ
- 2 はい

##### （1審被告について）

1審で主張していなかった新たな事実上の主張をした。

- 1 いいえ
- 2 はい

1審で主張していなかった新たな法律上の主張をした。

- 1 いいえ
- 2 はい

1審段階での主張立証に基づいて、原判決の認定判断を批判する主張をした。

- 1 いいえ
- 2 はい

問12

控訴審における立証の状況について、該当するものを回答してください。

(書証について)

1 審原告が、1 審で提出していなかった新たな書証を提出した。

1 いいえ

2 はい

1 審被告が、1 審で提出していなかった新たな書証を提出した。

1 いいえ

2 はい

(人証について)

1 審原告申出の人証（本人又は証人）の尋問をした。

1 いいえ

2 はい

1 審被告申出の人証（本人又は証人）の尋問をした。

1 いいえ

2 はい

職権で本人尋問を行った。

1 いいえ

2 はい

以上で設問は終わりです。